

平成23年度 一般社団法人日本家政学会

色彩・意匠学部会会報 No.8

発行日 平成24年3月31日
発行人 一般社団法人日本家政学会色彩・意匠学部会編集発行
事務局 〒102-8341 東京都千代田区三番町22番地
東京家政学院大学 現代家政学科 1705室(蒲池)
TEL/FAX : 03-3262-2617

《平成23年度総会報告》

平成23年5月28日(土)和洋女子大学(日本家政学会第63回大会会場)において、「平成23年度総会」を開催、以下の議事について報告、検討を行い、承認された。

議事

平成22年度事業報告

1. 総会

平成22年5月29日(土)広島大学教育学部
(日本家政学会第62回大会会場)

2. 役員会

平成22年8月26日(木) オンディーヌ
平成23年3月5日(土) 私学会館アルカディア市ヶ谷

3. 連絡懇談会

平成22年8月26日(木) 蒲郡商工会議所
(夏季セミナー会場)

4. 平成22年度夏季セミナー

平成22年8月26日(木)～8月27日(金)
蒲郡商工会議所・伊藤光学工業株式会社・愛知県産業技術研究所三河繊維技術センター

<プログラム>

8月26日(木)会場:蒲郡商工会議所

講演1)「色彩は万能か、万脳か」

講師:東京芸術大学名誉教授 小町谷朝生氏

講演2)「カラーユニバーサルデザインへのアプローチ:支援ツール開発を通して」

講師:伊藤光学工業株式会社技術部

主務 宮澤佳苗氏

見学1)「夢織人」(三河繊維産品アンテナショップ)

8月27日(金)会場:愛知県産業技術研究所
伊藤光学工業株式会社

見学2)愛知県産業技術研究所

三河繊維技術センター施設見学

講演3)「地域農産物由来天然色素による染色技術の開発」

講師:三河繊維技術センター開発技術室
主任 小林孝行氏

見学3)伊藤光学工業株式会社豊川工場「バリエーションの製造工程」見学

5. 情報交換会

平成22年8月26日(木)夏季セミナー宿泊
ホテル竹島

6. 共同研究打ち合わせ

平成22年8月26日(木)夏季セミナー宿泊
ホテル竹島

7. 講習会

平成23年3月5日(土)

私学会館アルカディア市ヶ谷・印刷博物館

講演1)「ニーズが生みだす研究テーマ」

講師:前日本女子大学教授 芦澤昌子氏

講演2)「印刷表現のユニバーサルデザイン」

講師:凸版印刷株式会社トッパンアイデアセンタ
- マーケティング本部 今津秀紀氏

見学1)博物館内見学および印刷体験

8. 平成22年度役員構成

部会長 :橋本令子

副部会長:成田巳代子、石原久代

常任委員：

- <庶務> 小町谷寿子、武井玲子、宮武恵子、花田美和子
- <会計> 井澤尚子、佐々木由美子、小吹史子
- <会報> 蒲池香津代、畑久美子、内藤章江
- <セミナー> 石原久代、小町谷寿子、大澤香奈子
- <春季講習会> 近藤信子
- <共同研究> 伊藤陽子、橋本令子
- <顧問> 伊藤紀之、加藤雪枝
- <監事> 芦澤昌子、斎藤祥子

寮・今衛門寮・柿右衛門寮他
講演会全体テーマ：「アジアへ向けて発信」

5. 情報交換会

平成23年8月25日(木) 夏季セミナー宿泊
御船山観光ホテル

6. 共同研究打ち合わせ

平成23年8月25日(木) 夏季セミナー宿泊
御船山観光ホテル

7. 講習会

平成24年3月3日(土) 日本女子大学

8. 平成23年度役員構成

- 部会長：成田巳代子
- 副部会長：武井玲子、井澤尚子
- 常任委員：
 - <庶務> 畑久美子、宮武恵子、大澤香奈子
 - <会計> 佐々木由美子、蒲池香津代
 - <会報> 小町谷寿子、花田美和子
 - <セミナー> 河地洋子、(徳山真由美)
 - <春季講習会> 滝沢真美
 - <共同研究> 石原久代、伊藤陽子
 - <ホームページ> 内藤章江
 - <顧問> 伊藤紀之、加藤雪枝、斎藤祥子
 - <監事> 芦澤昌子、橘喬子

9. 平成22年度会計報告

平成22年4月1日 - 平成23年3月31日

収入の部	金額(円)	支出の部	金額(円)
前年度繰越金	835	通信費	12,360
部会費	31,000	HP 使用料	6,315
セミナー会費	350,000	セミナー開催費	377,711
活動助成金 (学会本部より)	76,000		
財務活動支出 (前年度 定期預金解約)	40,000	投資活動支出 (定期預金)	90,000
雑収入(利息等)	349	次年度繰越金	11,798
合計	498,184	合計	498,184

以上の報告通り相違ありません。

監事 橘 喬子 印 (平成23年4月20日)
畑 久美子 印 (平成23年4月20日)

9. 平成23年度予算案

平成23年4月1日 ~ 平成24年3月31日

収入の部	金額(円)	支出の部	金額(円)
前年度繰越金	11,798	通信費	15,000
平成23年度 部会費	40,000	事務費	3,000
平成23年度 夏季セミナー会費	370,000	印刷費	10,000
平成23年度 春季講習会費	60,000	会議費	4,000
		夏季セミナー 開催費	370,000
		春季講習会 開催費	60,000
		HP 使用料	7,000
		雑費	1,000
		次年度繰越金	11,798
合計	481,798	合計	481,798

平成23年度事業計画

1. 総会

平成23年5月28日(土) 和洋女子大学
(日本家政学会第63回大会会場)

2. 役員会

平成23年8月25日(木) 香蘭女子短期大学
(夏季セミナー会場)
平成24年3月3日(土) 日本女子大学
(春季講習会時)

3. 連絡懇談会

平成23年8月25日(木) 香蘭女子短期大学
(夏季セミナー会場)

4. 平成23年度夏季セミナー

平成23年8月25日(木)・26日(金)
会場：香蘭女子短期大学・九州陶磁器文化館源衛門

平成23年度総会議事録

日時：平成23年5月28日(土)12:20～13:20

場所：和洋女子大学 E会場 西2-2教室

司会：武井副部長

参加者数：14名 委任状6名

・ 部会長挨拶

成田部会長より挨拶がなされた。

・ 報告・審議事項

1. 平成22年度事業報告

畑委員より、平成22年度事業報告がなされ、了承された。

2. 平成22年度会計報告

蒲池委員より22年度決算の収入の部と支出の部について報告がなされ、承認された。

3. 平成22年度会計監査報告

橋委員より監査報告がなされ、了承された。

4. 平成23年度事業計画案

畑委員より、平成23年度事業計画案が報告され、了承された。

5. 平成23年度予算案

蒲池委員より、前回の役員会にて報告された平成23年度の予算案に春季講習会の予算を追加修正した案が報告され、承認された。

6. 平成23年度夏季セミナーについて

夏季セミナー担当の河地委員より、平成23年度夏季セミナーの内容と詳細な日程について、説明がなされた。

7. 平成23年度色彩・意匠学部役員について

成田部会長より、平成23年度色彩・意匠学部役員について報告がなされ、承認された。

8. 色彩・意匠学部ホームページについて

内藤委員より、部会ホームページを昨春立ち上げ、公開準備を進めているとの報告がされ、今後、情報はここに載せ、夏季セミナー申し込みも可能にする予定であり、家政学会ホームページよりまだリンクされていないが、整い次第リンクできるようにしていく、との説明がなされた。

9. 共同研究について

橋本委員より、色弱者についての一連の研究につい

て以下の通り報告された。口頭発表は今学会をもって終了とし、今後は発表者が中心となり学会誌に投稿する準備を進めていく。また、武井副部長と成田部会長より、ユニバーサル・デザインの共同研究についての意見を、各自夏季セミナーまでにまとめ、提案してほしいとの意見が出され、承認された。

・ 閉会挨拶

成田部会長より閉会の挨拶がなされた。

《 夏季セミナー報告 》

平成23年度(社)日本家政学会色彩・意匠学部の第33回夏季セミナーが平成23年8月25日(木)～26日(金)の日程で福岡市の香蘭女子短期大学でのセミナー、佐賀県有田町の九州陶磁文化館および有田の窯元見学の内容で開催された。参加者は、のべ60名であった。

今回のセミナーのテーマは「アジアへ向けて発信」ということで、中国との取り組みについて香蘭女子短期大学の古森恵子先生と宮崎千草先生の講演、制服メーカー尾崎商事株式会社企画推進課長原田季典氏にご講演をいただいた。また陶磁器の街有田では、九州の陶磁器の歴史と特徴について九州陶磁文化館館長の鈴木由紀夫氏のご講演と館内の作品の解説を受けながら見学を行った。窯元見学では、源衛門窯・今衛門窯・柿右衛門窯の見学と解説を受け、この3つ窯元の特徴である赤絵の具を一子伝来で作り続けておられる辻公也先生から、陶磁器の絵の具についての説明も伺うことができた。講演および有田の窯元見学という盛りだくさんの企画で実施した。

<プログラム内容>

8月25日(木)会場：香蘭女子短期大学

12:30～13:00 受付

13:00～13:40 学内見学

13:45～15:50 全体テーマ「アジアへ向けて発信」

講演1「上海万博日本分室での

ショー出典報告」

香蘭女子短期大学 古森恵子氏

講演2「大連国際ファッション

フェスティバル状況報告」

香蘭女子短期大学 宮崎千草氏

講演3「上海で展開している

学生服メーカーの現状」

尾崎商事株式会社企画推進部

原田季典氏・梅林千晶氏

16:10～17:30 武雄温泉へ

18:00～19:00 部会打ち合わせ
 19:00～ 情報交換会（御船山観光ホテル）
 8月26日（金）会場：泉山磁石場・九州陶磁器
 文化館・柿右衛門窯・源衛門窯
 今衛門古陶磁美術館・辻絵具店
 8:00～ 御船山観光ホテル出発
 （全行程マイクロバス）
 8:30～9:10 見学1 泉山磁石場見学
 9:10～10:30 講演1「九州の陶磁器について」
 九州陶磁文化館館長
 鈴木由紀夫氏
 見学2 九州陶磁文化館の見学
 10:30～12:00 見学3 窯元めぐり
 柿右衛門窯・源衛門窯
 12:00～12:30 昼食
 12:30～13:30 見学4 今衛門古陶磁美術館
 辻絵具店・有田の町自由散策
 13:30～15:00 博多駅へ 博多駅解散

1) 講演1「上海万博日本館分室でのショー出展報告」

講師：古森恵子氏（香蘭女子短期大学 講師）

環境・リサイクル・高齢者をテーマに、3年間の研究報告がなされた。さらに、おむつをつけても「イキイキとした素敵なシルバーファッション」をテーマに、旅行に・パーティーに・家庭菜園に等をキーワードで、福岡県の特産品である久留米餅を使い、高齢者の服を製作した。久留米餅を使った服を製作し提案した。この服を使い、上海万博の日本館で高齢者のモデルを使いファッションショーを開催した。一般の人がまだファッションショーを見る機会が少ない中国で、喝采を受けた報告がなされた。

2) 講演2「2010大連国際ファッションフェスティバルの状況報告と2011年参加予定報告」

講師 香蘭女子短期大学 宮崎千草氏

中国大連では、国際ファッション祭りが政府の肝いりで毎年大々的に開催される。2010年にはそのファッション祭りとは大連工科大学のファッション科の見学を行った。大連工科大学の授業の高さ、作品のレベルの高さに驚いた。又大連ファッション祭りに参加している企業の作品及び学生の作品もクリエイティブな強い作品が多く出展されていたことにおどろいた。2011年のこの祭りに、ショー・展示・講演の依頼があり、それを受けて出展する内容の説明がなされた。

3) 講演3「上海で展開している学生服メーカーの現状」

講師 尾崎商事株式会社

原田季典氏・梅林千晶氏

現在までの生産営業状態と生徒数減との関係の報告とファッションが学生服へ影響を及ぼしていることの実証報告がなされた。日本の学生服メーカーで、自社の工場を中国で展開している会社は尾崎商事のみである。その中国での生産状況が説明された。中国で生産して日本で売る方法を取ったが、当初は「中国生産」と敬遠された。しかし今、中国の技術の向上はその偏見をなくしていった。さらに、中国で生産して中国で販売する方法へ切り替え、今営業開拓を進め現在3校の制服が決定されている現状の報告があった。



講演（香蘭女子短期大学にて）

4) 見学1「泉山磁石場」



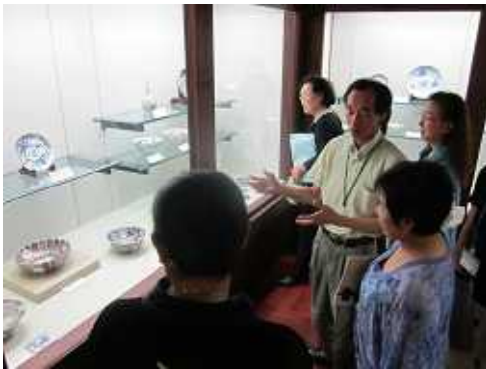
壮大な泉山磁石場

1600年始頭肥前有田郷泉山に白磁鉦が発見され、日本で最初の磁器が焼かれた。佐賀藩主鍋島直茂が朝鮮より連れてきた陶工集団の頭、李参平がその始祖と伝えられている。1600年以前の陶器から磁器へと転向され有田焼400年の歴史が回り始めた。現在は泉山の石は発掘禁止になっており、天草の石を砕いて使っている。泉山磁石場見学と併設されている有田町歴史民族資料館の見学及び館長からの説明を受けた。朝鮮半島との結びつきについて、あらためて歴史の深さに感動した。

5) 見学2 九州陶磁器文化館見学

館長 鈴田由紀夫氏「九州の陶磁器について」

有田焼の素地の原料の解説を泉山磁石場で受け、次に有田町の高台に位置する、壮大な九州陶磁器文化館に入った。そこでは館長の「九州の陶磁器について」の講演を受けその知識を頭にいれ、館長自ら館内の作品の解説をしていただいた。パワーポイントのレクチャーのみではなく、現物の解説は磁器に関する知識を深めることができた。1609年オランダ船が平戸に入港し1641年オランダ商館を長崎出島に移し、オランダ貿易により生産量の増大と品質の向上を促したようである。中国磁器の代用品としてその模倣にとどまらず、独自の柿右衛門様式や古伊万里様式が生まれた。1854年オランダによる海外貿易の独占時代は終わり、1857年パリ万国博有田磁器展、1873年ウィーン万国博出品等海外輸出の気運が高まった。ヨーロッパでは、ドイツのマイセン窯で硬質磁器の焼成が成功するまで磁器を生産することができず、有田焼はヨーロッパの貴族や裕福な市民の間で食器や室内を飾るものとして収集されていた。私たちが食器として使っているものを、シャンデリアや電気の傘に使うなどヨーロッパでは思わぬものへの展開がなされていた。それらの多くの作品に触れることができ、知識が増えると同時に、日本がヨーロッパで認められていた現実をあらためて再認識した。



九州陶磁文化館見学にて

6) 見学3 源衛門窯・柿右衛門窯見学

大きな噴水のある池をもつ日本庭園を右手にみて源衛門窯へ入った。現代生活の多くの場面で、作品を見ることができる我々にとって身近な作品である。その歴史を見ると、昭和54年に「源コレクション」を発表とある。ファッション界では当たり前になっていることであるが、窯元でコレクション発表とは珍しい。又多くの異業種と共同開発を行っていることも、特筆すべきである。たとえば米国ティファニー社、セイコークロック、ハンガリーヘレンド窯と文様や形状の交流、セーラー万年筆と共同開発を行い、磁器万華鏡の開発まで行っている。

源衛門窯の世界を見通し、時代時代に暮らしを彩る先取り開発へのエネルギーを感じた。

大きな日本の伝統建築である藁葺き屋根の建物を持つ柿右衛門窯の見学を行った。窯が存在する工房の中の整然と美しく整理されている状態に、この美しさが作品の品格に現れるのだらうと感動した。伝統をしっかりと守りながらの作品作りは、大量に簡単に売れる作品はない。高価で中々手が出せないものではあるが、そこには静かな凜とした美しさを感じた。日本の文化をしっかりと守っていく工房も必要と思った。いつかこの美しさの器を求めたいと思った。

7) 見学4 今衛門窯古陶磁美術館・辻絵の具店見学

急に強い雨が降り出し、今衛門窯古陶磁美術館と辻絵の具店の二手に分かれて、中に入れていただいた。今衛門窯古陶磁美術館は古いものから現代のものまで作品が展示されていた。歴代の今衛門さんの作風の違いもしっかり見ることができた。今衛門さんは、伝統をしっかりと守りながら、常に新しい技術へ挑戦をされていることが理解できた。13代今衛門さんは、吹墨などによる色絵表現が認められ、重要無形文化財保持者の認証を受けている。現在の14代今衛門は2002年に襲名し、探究心と独特の感覚を持ち、墨はじきの技法を確立するなど、伝統技術をさらに発展させる活動を続けられている。源衛門さん、柿右衛門さんでは見られない文様や吹墨の装飾技法が印象的であった。

今回のこのセミナーについて、いろいろとお骨折りいただいた先生が、辻絵の具店の店主である九州産業大学の名誉教授で、一子伝来の絵の具を守りぬかれています先生である。ドイツへ招聘され、有田の文化を守ることに努力されている先生でもある。この先生のお店も江戸時代の建物で、天皇陛下へ献上されたのと同じ椅子に座ってお話を聞くことができた。有田焼400年の歴史の中で、色絵（赤絵）の果たす役割は大きなものである。中国宋時代の宋赤絵は有田に赤絵文化を成したといわれている。この有田和絵具は、世界の特にヨーロッパで再び花を咲かせた。辻家と万博の関係も強く、明治43年ロンドン日英博、トリノ博、サンフランシスコパナマ博、パリ博、ニューヨーク博等への参加の記録が残っている。このように有田の磁器と切っても切り離せないものが絵の具である。現在上絵の具を製造販売して伝統を守り続けているところが辻絵の具店である。上絵の具は、赤・緑・黄・青・紫の5色が基本であるが、製品は60色以上にもなるそうである。絵の具は顔料と唐石を混ぜて作るそうだが、明治26年に唐石作りにも成功し、代々守り続けられているのが辻唐石として知られている。又環境問題や安全性など様々な問題解決の努力もされ、超耐酸化絵の具の生産にも取り組むなど常に研究も進められている。



九州陶磁器文化館見学にて

(夏季セミナー実行委員長：河地洋子、
委員：徳山真由美)

《 色彩・意匠学部会共同研究について 》

色弱者に配慮した衣服の色表示に関する研究

本研究は、衣服の色表示の改善方法を社会に向けて提案するため、衣服におけるカラーユニバーサルデザインについて研究を進めることを目的に平成19年度から調査を開始した。これまでに、日本家政学会全国大会にて(1)アパレル商品における色表示の現状、(2)消費者と衣料品販売員の意識、(3)色弱模擬フィルタを用いた色の判別実験、(4)慣用色名の認知度の検討、(5)色弱者における慣用色名の認知度、(6)色弱者による色の判別実験と6報の口頭発表を行ってきた。平成23年度は、第7報として「布地における色名の認識」について色弱者を対象とした調査・実験を実施し、その結果を第63回大会において発表したの以下に報告する。

(7) 布地における色名の認識

石原 久代(発表者)、橋本令子、内藤章江、井澤尚子、
成田巳代子、橋喬子、芦澤 昌子

【目的】 社会において色は重要な情報伝達手段であるが、色弱者への配慮は一部を除いてほとんどされていない。特に衣服は、コーディネートの観点から色そのものを把握する必要がある。そこで、我々は色弱者に配慮した衣服の色表示を提案するために、これまで色票を用いて色弱者の色認識や色弱模擬フィルタを用いた判別、色名の認知について検討してきた。本報では衣服の色を想定して布地の色の認識について実験を行い、検討した。

【方法】 試料は、前報の結果から選出した125色に「色覚の多様性に配慮した案内・サイン・図表等用のカラーユニバーサルデザイン推奨配色セット」の20色を加えた145色の綿ブロードを用いた。被験者は、

正常色覚者14名、色弱者6名、色弱模擬フィルタを装着した正常色覚者7名で、実験は各試料の色名を回答させる方法で行った。色名はJISの基本色名に推奨配色セットの色名を加えた赤・黄赤、黄、黄緑、緑、青緑、青、青紫、紫、赤紫、白、灰、黒、茶、ピンク、水色、肌色、紺色、クリーム、焦げ茶、ねずみ色、空色、ベージュの23語とし、付与できる修飾語は、うすい、濃い、明るい、暗い、鮮やかなの5語とした。

【結果及び考察】 色弱者は、正常色覚者や色弱模擬フィルタ装着者に比べ、修飾語の使用率が高かった。修飾語について正常色覚者は「うすい」を多く用いているのに対して、色弱者は「明るい」「鮮やかな」の使用率が高く、模擬フィルタ装着者は「暗い」が多かった。色名について、色弱者はピンクや赤紫の使用が多かった。また、色弱者には本来識別しにくいとされる赤や橙、緑、青緑などの使用率も正常色覚者や色弱模擬フィルタ装着者より多く使われた。なお、色名の選択については色弱模擬フィルタ装着者について有意な差が認められた。

(担当：石原久代)

《 お知らせ 》

平成24年度 34回夏季セミナー

詳細は、後日案内をさし上げます。

日時：平成24年8月23日(木)、24日(金)

《23日》公開講演会 13:00~17:00

会場：東京家政学院大学 千代田三番町キャンパス

内容：

講演1 新聞メディアから見た2012年ファッション事情(仮題) 高橋直彦

講演2 新光源&節電時代の照明 岩井 彌

講演3 理解しやすい被服学のためのe-ラーニングの利用 石原久代・小町谷寿子

情報交換会

《24日》見学会 9:00~15:00

見学1 東京スカイツリー、浅草自由散策

昼食 江戸エコ行楽重(楠公レストハウス)

見学2 旧岩崎邸(重要文化財)

東京駅 解散

見学会は定員30名の先着順といたします。

参加費 12,000円(予定) 公開講演会は無料

申込み先 下記メールアドレス、井澤尚子宛

メールタイトルに「夏季セミナー参加希望」とお書きください。

event@shikisai-isyou.sakura.ne.jp

申込み〆切り 平成24年7月21日(土)

色彩・意匠学部会 ホームページ

平成 22 年度より、色彩・意匠学部会のホームページを開設しております。部会における取組の紹介やイベント情報などを掲載しています。是非ご覧ください。

色彩・意匠学部会ホームページ

URL

<http://shikisai-isyou.sakura.ne.jp/index.html>

色彩・意匠学部会規約

第1章 総則

第1条 本会は、(社)日本家政学会色彩・意匠学部会とする。

第2条 本会は、(社)日本家政学会の全国的な会員の交流をはかり、色彩・意匠の学術・研究の成果を高め、家政学の発展に寄与することを目的とする。

第2章 事業

第3条 本会は、その目的を達成するために次の事業を行う。

1. 部会総会
2. 部会セミナー
3. 部会講習会・見学会
4. 部会研究会
5. 会報・成果の印刷物配布
6. その他、本会にて必要と認める事業

第4条 事業は、毎年4月1日から始まり、翌年3月31日で終わりとする。

なお、本会の事業計画・事業報告は、学会理事会に報告するものとする。

第3章 会員

第5条 本会は、次の構成員で組織する。

1. 正会員 原則として日本家政学会会員で、色彩・意匠学領域に関連する研究・教育に携わる者
2. 学生会員 色彩・意匠学領域に関心を持つ学生

第4章 役員

第6条 本会の運営を円滑にするために、次の役員をおく。

1. 部会長 1名
2. 副部会長 2名
3. 常任委員 20名以内
4. 監事 2名
5. 顧問 若干名

第7条 部会長の選任、解任は次の通りである。

1. 部会長は、日本家政学会会員に限る。
2. 部会長の選任は、本会会員の互選によって選出し、部会総会にて報告承認を行い、学会理事会において承認を受ける。
3. 部会長の解任は、総会にて行い、学会理事会において承認を受ける。
4. 部会長が解任された場合は、前任者の残任期間は他の役員が職務を代行する。

第7条 副部会長・常任委員・監事・顧問は、会員の互選によって選出し、総会にて承認を受ける。また、解任は総会にて行い、残任期間は他の役員が職務を代行する

第8条 役員の任期は2年とし、再選をさまたげない。

第9条 役員の職務は次の通りとする。

1. 部会長は、本会を代表し、会の運営を統括する。
2. 副部会長は、部会長を補佐する。
3. 常任委員は、本会の業務を遂行し、必要に応じて業務を分担する。
4. 監事は、本会会計の監査を行う。
5. 顧問は、必要な助言を行う。

第5章 総会

第10条 本会の総会は、原則として(社)日本家政学会の年次大会時に開催する。また、適宜臨時総会を開催することができる。

第6章 会費

第11条 本会の会費は、年額千円とする。

第7章 会計

第12条 本会の運営経費は、会費による。

第13条 会計年度は、毎年4月1日から始まり、翌年3月31日で終わりとする。

なお、本会の予算・決算報告は、学会理事会に報告するものとする。

第8章 事務局

第14条 本会の事務局は、庶務責任者または会計責任者の所属する機関内におく。

[付則]

この規約は、昭和53年4月1日より施行する。

この規約は、昭和58年8月26日より施行する。

この規約は、平成元年8月22日より施行する。

この規約は、平成15年8月28日より施行する。

この規約は、平成22年5月1日より施行する。

申し合わせ事項

1. 役員の職務は庶務・会計・セミナー・企画の係を分担する。
2. 庶務・会計は会員の中から補佐を依頼することが出来る。
3. 事務局は会計責任者の勤務先住所とする。(付2)
4. 会計は会計責任者名で口座を開設する。

(付1): 部会長連絡先(平成23年4月1日から)

〒520-0803 滋賀県大津市竜が丘24-4
滋賀短期大学 生活学科 成田 巳代子

TEL077-524-3605 FAX077-523-5124

e-mail: m_narita8259@ybb.ne.jp

(付2): 事務局連絡先(平成23年4月1日から)

〒102-8341 東京都千代田区三番町22番地

東京家政学院大学 現代家政学科 1705室 蒲池香津代

(部会費振込み先) 口座番号: 0014 5 389316

口座名義: 色彩・意匠学部会

<編集後記> 皆様のご協力のもと、会報の発行に至りましたことを深く感謝いたします。東日本大震災の後、全力で復興にあたったこの一年。誰もが真剣に“自分にできること”を模索した年でした。今後とも部会員の皆様とともに“私たちにできること”を探っていきたく思います。色彩・意匠学部会員の益々のご活躍をお祈りしております。(担当: 花田 小町谷)